

令和3年度（2021年度）

社会福祉法人 いなほ福祉会

就労継続支援B型事業 ワークショップゆう 事業報告書

1. 事業所所在地

和歌山県新宮市佐野954-3

電話 (0735) 31-2336

FAX (0735) 31-9996

2. 基本方針

基本方針である「障害の状況に配慮しつつ利用者が働く中で、その能力をいかんなく発揮し、生産活動をとおり社会的貢献や働く喜び、充実感を感じ取ることで、自らの存在価値を確認し、社会的自立をめざします。また、一人ひとりが互いに人格を尊重し、相互に助け合う集団づくりを通し豊かな成長をめざします。作業所生活を通して経験や生活の幅を広げ、豊かで充実した生活につながる支援を心がけます。」の基、実践に努めました。

3. 利用定員と利用実績（令和4年3月末日）

定員 20名 利用登録者 23名

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	22	20	22	21	20	21	23	21	23	19	18	23	253
延利用人数	401	373	414	376	343	359	409	389	428	360	342	395	4,589
1日平均	18.2	18.7	18.8	17.9	17	18.3	17.7	18.5	18.6	19.9	19	17.1	18.2

※令和2年度 = 18.3人

※感染予防の為に利用を控えた方へは在宅支援を行いました。

4. 職員体制（令和4年3月現在）

	定数	現員	内 訳	
			常勤	非常勤
管理者	1名	1名（兼務）	1名	
サービス管理責任者	1名	1名	1名	
生活支援員	1名	2名（2名兼務）	1名	1名（2名兼務）
職業指導員	1名	7名（1名兼務）		7名（1名兼務）
目標工賃達成指導員	1名	1名	1名	
調理員		3名		3名
送迎員		3名		3名
嘱託医	（1名）	—	—	（1名）
計	5名	18名	4名	14名

## 5. 重点方針の結果

### (1) 成人分野共通方針

- ① 暖海ハイツで生活をする利用者家族のこれまでの生活が守られるよう、運営移行をスムーズにすすめられるようにします。
  - ・令和3年4月から暖海ハイツの運営主体がNPO法人七彩会へ移行し、円滑に引継ぎが出来ました。入居者も暖海ハイツでの生活を継続し安定した生活を送ることが出来ています。今後も安定した生活を支えていけるよう、NPO法人七彩会との連携を継続していきます。
- ② 法人の組織体系の変更に伴った体制の安定と強化をすすめます。
  - ・法人の運営や経営の世代交代に伴い、新たな組織体系となりました。また、成人分野間での異動や兼務等、新たな配置や役割を見直し、正規職員の役割や事業所運営に携わる事への問題意識へとつなげました。主任職の世代交代を含めた新たな職員配置や役割のもと、体制の安定や事業所運営の充実が今後も継続した課題となります。
- ③ 成人分野事業所での共通した課題を協働して取り組んでいきます。
  - ・協同任務担当を配置し、安全管理や衛生管理、業務継続計画の策定を連携し取り組むことが出来ました。
  - ・「ワークショップゆう」の移転プロジェクトチームを立ち上げ、移転に向けた検討をすすめました。
- ④ 福祉専門職員としての人材育成をすすめます。
  - ・実践の質を高めたり、事業展開をしていくためには、実践を任せられる人材の確保が重要です。今後も利用者を主体とした実践や支援の質の向上となるよう、人材育成が継続した課題となります。
- ⑤ 法令遵守の価値観の醸成に努めます。
  - ・法令遵守への意識や認識を高める必要性は理解しながらも職員に向けた取り組みは深められませんでした。

指導監査が平成29年から4年実施されていないため、事業所内の内部監査を通して法令遵守への意識や認識を高める機会へとつなげていく必要があります。

### (2) ワークショップゆう 重点方針

- ① 個別面談や日常のニーズ把握を通し、利用者が主体となった個別支援計画の策定やきめ細やかな支援につなげます。
  - ・支援計画の策定やモニタリングの毎月開催は定着し少人数を検討し内容を深めていくことが出来ました。
  - ・家族との個別面談の実施は感染予防や体制上限られた職員で対応しなければならず、定期的には出来ませんでした。家族との連絡調整は個別に行いました。
- ② 職員体制の安定をはかります。

- ・4月から管理者が平見ハイツの管理者を兼務し、6月から主任がいなほ作業所へ異動し、今後の事業展開や世代交代につながるよう役割分担を見直した職員配置を行うことが出来ました。
- ・利用者を主体とした支援を深め、職員間での情報共有や連携を強化出来るよう、職員会議での学習の機会を大切にしました。

### ③ 土曜取り組みの開所日を増やせるよう試みます。

- ・コロナ禍により楽しみの機会が少なくなっており、可能な限り土曜取りの開所を増やし楽しみになる機会を広げ、生活の充実につなげました。
- ・作業所内を拠点とした取り組みが中心であったため、職員を交代し支援体制をつくる事が出来、開所日を増やすことが出来ました。作業所外での活動が増えると支援体制を増やす必要があり、開所日を増やせなくなる課題はあります。

### ④ 利用希望や利用待機者、実習等の受入についての仕組みを整理します。

- ・関係機関との連携や実習の受け入れ等の対応は行ったが、マンツーマンでの支援が必要な方の受け入れが難しい支援体制のため、新規利用者の受け入れにつなげることが出来ませんでした。また成人分野では卒業がないため将来を視野に入れた支援を想定した受け入れの必要があり、慎重な対応を行いました。そのため、今年度も赤字運営の結果となりました。経営を安定させるため新規受け入れをすすめていく必要があります。
- ・利用希望者の受け入れについて当事者や関係機関と連携し、開かれた利用につなげられる仕組み作りは検討途中であり、ニーズに応じた事業所利用や実習受入につなげていく事が継続した課題となっています。

## 6. 利用者への提供サービス

働くことや作業所での生活体験を通して、利用者が見通しをもって労働や生活に関われることを大切にする“ゆるやかな就労”という方針を堅持しつつ、利用者20人（平均利用者数18.3人）の小集団としての集団相互作用の効果を高め、豊かな生活を実感できる支援の組み立てに努めました。

### (1) [ 作業支援 ]

安定した製造、作業技術の向上、廃棄を減らす事に重点をおいてすすめました。「工賃向上計画」に基づき、下記のとおり、製パン、製菓事業の充実をめざしました。

#### ① 製パン、製菓部門

- ・感染予防への対応として持ち売り販売を控え、納品を中心とした販売としたため、製造販売量は全体的に縮小となりました。
- ・新商品として「あんおやき」の販売を5月から開始しました。
- ・製造量が減り余力がある間に新商品の開発と製造の練習を行い、あん食パンや白いあんぱん等新たな商品を製造出来るようになりました。
- ・ゆうキーはいなほ作業所への卸売は減少したが年間を通した注文があり、さらに太地道の駅での販売を10月から開始し、昨年度より1.47倍アップの売り上げとなりました。
- ・食パン生地への異物混入、あんおやきから洗剤のにおいがするクレームを受け、お客様から

商品の回収や返金対応を行い、施設会計から損失（74,000円）を補填しました。

- ・原材料費の高騰に対し販売価格は据え置いており、価格の見直しが課題となっています。

## ② 物品販売、事務部門

- ・カタログ販売は、引き続きいなほ作業所とエリアを分担して取組むことができました。
- ・売り上げを増やすため、3月にも春のカタログ販売を行いました。
- ・就労会計と予約受付、集計、請求の実務として、事務部門（おふいしゅう）を充実させました。
- ・事務部門の技術向上により、受注や生産量の把握、販売時の伝票準備、売上計算等が円滑にすすめられています。

## ③ 新しい作業部門

- ・土曜取り組み（ドヤサー）で取り組んだ「タイダイ染め」から染物の注文を受け、新たな作業へとつながりました。また通園くじらの取り組みとして染物を教えに行く機会や、レインボーフェスタのイベントグッズとして染物のバンダナの受注もありました。
- ・製造や事務作業に携わり難い利用者に向け、衛生面や時間にとらわれない作業部門の創設とつなげていく作業種目候補が見つかりました。

## ④ 就労支援事業・収支実績

	2019(R元)年度実績	2020(R2)年度実績	2021(R3)年度実績(見込み)
年間売上金額(A)	7,581,200円	7,209,511円	7,707,630円
年間経費(B)	7,437,366円	7,353,583円	7,783,978円
年間利益(A-B)	143,834円	-144,072円	-76,348円

## ⑤ 工賃支給実績

	2019(R元)年度実績	2020(R2)年度実績	2021(R3)年度実績(見込み)
平均工賃月額	10,436円	10,288円	10,095円
時給換算額	126.4円	124.2円	118.2円
年間工賃総額	2,608,975円	2,602,970円	2,523,965円
年間支払対象者数	250名	253名	250名
利益の分配額	基本8,000円/人	基本5,000円/人	要検討

※収益は赤字ではあったがコロナの影響による理由のため、剰余金から補填しボーナス加算を行いました。

## (2) 【生活支援】

作業所実践や諸行事等での利用者・家族の要望（意見）を傾聴し、利用者本位の作業所運営となるよう取り組み、要望（意見）に対しては迅速な対応を行いました。

### ① ドヤサー（土曜日の取り組み）・お楽しみ企画

- ・平日に取り入れにくい余暇活動を通して、生活体験の幅が広がるように活動内容を工夫しました。毎月1回の土曜日の活動は、社会経験を広げる為の大切な位置づけとなっています。また、利用者の楽しみとなっており、今後も内容をさらに充実させていきます。
- ・新型コロナウイルス感染予防の為、主に事業所内で取り組むようにしました。
- ・つくしんぼ歌謡祭はオンライン、一泊旅行は日帰り旅行とし、コロナ禍の中でも中止にせず開催しました。16回実施準備をしていましたが、感染予防や台風接近により4回中止となりました。

実施月	取り組み内容	参加利用者
4/17	タイダイ染め体験 (ハンカチ) 【ワークショップゆう】	16名
5/8	つくしんぼ歌謡祭の練習 【ワークショップゆう】	16名
5/22	つくしんぼ歌謡祭 【ワークショップゆう】	16名
7/3	タイダイ染め体験 (Tシャツ) 【ワークショップゆう】	18名
7/17	映画鑑賞会 【ワークショップゆう】	13名
8/7	みんなでライブに行こう 【太地町地域福祉センター榎】	(感染予防の為中止)
8/21	映画鑑賞会 【ワークショップゆう】	15名
9/18	ボッチャ大会 【ワークショップゆう】	(台風接近の為中止)
10/2	スイッチ運動会 【ワークショップゆう】	18名
10/16	大人の運動会 【みくまの支援学校体育館】	16名
11/11	日帰り旅行 (平日の企画) 【串本方面】	20名
11/20	カラオケに行こう 【勝浦/カラオケハウス歌楽】	15名
12/4	みんなでライブに行こう 【太地町地域福祉センター榎】	12名
12/18	大人のクリスマス会 【ワークショップゆう】	18名
1/15	フルーツサンド&大福づくり 【ワークショップゆう】	(感染予防の為中止)
2/26	映画&ライブをみよう 【ワークショップゆう】	(感染予防の為中止)
3/19	フルーツサンド&大福づくり・お別れ会 【ワークショップゆう】	13名
合計	日帰り旅行企画1日/ドヤサー (土曜取り組み) 12日開催	186名

(ドヤサー令和2年は9日開催 139名)

## ② ニコサー

- ・毎週水曜日午後の約1時間ではありますが、作業をしないリフレッシュする時間となっています。主にストレッチを行い、1週間の中休みとして活用できています。

## ③ ハイツの利用

- ・グループホームに対するニーズの実態を把握しつつ、コロナ感染予防による宿泊体験実習の利用は控え、家庭の都合での利用が3名のみとなりました。

〔宿泊体験実習 利用実績〕

利用者 3人 / 利用日数 13日 / 職員同泊同行等支援 5日

## ④ 障害福祉サービスの活用

- ・必要に応じて本人や家族と相談支援事業所との仲立ちとなり、「障害福祉サービスの活用」

につなげ余暇や生活面でも豊かな生活につながる事を大切に出来るようすすめました。

- ・コロナ感染予防のため移動支援の利用が休止している方に向け同行支援を対応しました。
- ・一人暮らしになった利用者への生活支援や成年後見申請等の対応を行いました。

### **(3) [ 就労支援 ]**

- ・一般就労をしている利用者の就労が継続出来るよう、東牟婁圏域障害者就業・生活支援センターや相談支援事業所と連携しながら支援の継続を行いました。
- ・必要に応じて就労先の事業所からの相談や対応を行いました。

### **(4) [ 個別支援計画 ]**

- ・「アセスメント」「個別支援計画」「モニタリング」「ケース検討」「計画修正」を、特に本人が主体となって自信や意欲につなげられるよう努めました。
- ・相談支援事業所のサービス等利用計画の策定期間に応じた個別支援計画の策定やモニタリングをすすめました。「個別支援計画」を策定し、計画の実施、並びに適時見直しを実施しました。

### **(5) [ 日 課 ]**

- ・「令和3（2021）年度事業計画書」のとおり実施しました。

### **(6) [ 健康管理 ]**

- ・年1回の健康診断を実施（2021（令和3）年 6月28日）  
※必要に応じて通院同行支援を実施し、医療機関と連携した対応を行いました。  
※必要な方へはワクチン接種調整や接種同行を行いました。

### **(7) [ 通 所 ]**

- ・必要な方への送迎対応を継続しています。

### **(8) [ 給食サービス ]**

- ・栄養のバランスを考えた給食を提供し、食事を通じた健康増進に努めました。
- ・嗜好調査等を行い、リクエストに応えた献立を行いました。
- ・偏食の方への食事提供の工夫を行いました。

## **7. 利用者のプライバシーの確保（個人情報管理）**

人権擁護の立場から個人のプライバシーの保護並びに配慮を徹底しました。

職員は正当な理由なく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を第三者に漏らしてはならない。さらに職員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持すべき旨を職員との雇用契約に明記する等、必要な措置を講じました。

個人情報データのセキュリティ構築の具体化に向けASPの導入しました。

## **8. 非常災害対策（安全管理）**

### ① 自衛防災訓練（自主訓練）

- ・水害（6月16日）地震と津波（6月2日）からの避難訓練を実施しました。
- ・風水害土砂災害緊急避難チャートの確認（9月16日）

### ② 自衛防災訓練（8月25日）（2月16日）

- ・新型コロナ感染予防のため消防署の立ち合いはなく、火災からの避難・通報・初期消火訓練を自主的に実施しました。

### ③ 消防設備法定点検（9月7日）（3月8日）

### ④ 震災（津波）対策を含めた総合的な防災計画、並びに防災対策の構築については一定の準備は完了しており、継続的な訓練の実施を行いました。

### ⑤ 防犯対策については、防犯・不審者対応チャートの配布確認のみとなりました。

※災害対策推進員・安全管理対策推進員を配置し、利用者・職員の防災意識の高揚を図り、利用者の安全・安心・衛生保持に努めました。

※異常気象による被害を想定し、無理をしない開所や早めの避難等の対応を行いました。

※災害伝言ダイヤル体験利用を1月15日～ 毎月15日に実施しました。

## 9. 虐待防止・人権擁護のための措置

利用者の人権擁護・虐待防止に対応するため、責任者の設置、相談窓口の設置等苦虐待防止体制の整備、成年後見制度の利用に向けた支援、職員に対する研修その他必要な措置を講じました。人権擁護推進員を配置し利用者・職員の人権意識の向上につなげていきました。

虐待防止責任者 野々 江美

虐待受付担当者 田中 洋平

## 10. 苦情解決のための措置

利用者やその家族の意向を汲み取るよう努めました。コロナ感染予防のため家族会の開催が減り、家族会開催時に意向を聞き取る機会が少なくなりました。

日々の生活支援上での、利用者や家族からの希望や要望的な苦情申し出を受け、都度改善を図り解決を積み重ねる事で大きな苦情につながることなく1年を終える事が出来ました。

苦情解決要綱」に則った案件はありませんでした。

苦情解決責任者 野々 江美

苦情解決担当者 田中 洋平

第3者委員 那智勝浦町役場 福祉課福祉厚生係

## 11. 家族会の運営

開催日（7月6日・11月2日） 2回開催

※5月、9月、1月、3月は新型コロナ感染予防の為中止となりました。

## 12. 職員（援助者）の援助技術の向上

### ① 各種会議により、職員間のコミュニケーションを充実させ、支援方針の共有と遵守に努めました。

・支援職員全体会議	→	12回開催
・職員会議	→	11回開催
・個別支援計画策定会議	→	8回開催
・モニタリング会議	→	10回開催
・給食会議	→	7回開催

## ② 職員研修の実施（支援の質の向上）

### ☆内部研修

日程	主催	研修内容	講師	参加人数
5月29日	いなほ福祉会	虐待防止・人権擁護伝達研修 法人実践報告／ルールブック	人権擁護推進員 各分野代表/理事長	全職員
6月23日	ワークショップゆう	2020年度実践総括	田中洋平	11名
7月29日	ワークショップゆう	2020年度実践総括	田中洋平	12名
7月31日	いなほ福祉会	成人分野の取り組みについて 発達の学習会①	竹内・田中 田尻	4名
8月26日	ワークショップゆう	2020年度実践総括 伝達研修「成人分野で大切にしていること」	田中洋平	11名
9月16日	ワークショップゆう	てんかん発作について	田中洋平	13名
9月16日	ワークショップゆう	発達について（法人研修会伝達研修）	亀井 舞	13名
10月 7日	ワークショップゆう	職員間の連携/事故発生時の対応について	田中洋平	13名
10月30日	いなほ福祉会	児童分野の取り組みについて 発達の学習会②	児童分野職員	4名
12月 9日	ワークショップゆう	利用者支援について	田中洋平	12名
1月 6日	ワークショップゆう	災害伝言ダイヤルについて	野々江美	11名
2月17日	ワークショップゆう	支援で大切にしたいこと 衛生管理について	田中洋平	10名
3月10日	ワークショップゆう	支援で大切にしたいこと	田中洋平	10名
3月24日	ワークショップゆう	身体拘束適正化のための指針について	野々江美	4名

### ☆外部研修

日程	主催	研修内容	講師	参加人数
9月 7日	わされん教育研修委員会	優生保護法の歴史と罪（オンライン研修）	きょうされん	5名
10月29日	きょうされん	オンライン全国大会	きょうされん	1名
11月 3日	和歌山県	「I am Here」（ドキュメンタリー映画） 「性」「らしさ」について	LGBT と愉快的な仲間たち	1名
11月25日	和歌山県	令和3年度食品表示推進者育成講習会	和歌山県食品生活衛生課食品情報班	1名
2月 1日	ピースウィンズ・ジャ	新型コロナ対策オンライン講座	ピースウィンズ・ジ	1名



	パン		ジャパン大江医師	
2月 8日	ピースウィンズ・ジャパン	新型コロナ対策オンライン相談会	ピースウィンズ・ジャパン大江医師	10名

### ③ 資格の取得状況

精神保健福祉士	有資格者	1名
介護福祉士	有資格者	3名
サービス管理責任者	有資格者	2名

### 13. 事務・財務管理

- ・会計処理の適正と状況把握を定期的に行いました。
- ・請求事務の効率化をはかりました。
- ・経費の省力化をはかりました。

### 14. その他の業務

#### ① きょうされん・わされんの運動

- ・ブロック会議を通し、地域での障害者運動を継続していく事が出来ました。
- ・ウクライナの障害のある人への支援募金を取り組みました。
- ・リモート盆踊り大会、オンライン全国大会、わたしたちのかくし芸大会に参加し、全国の事業所とつながり交流をしました。(オンライン参加)

#### ② 新宮東牟婁障害者施設連絡会・全障研新宮東牟婁支部

- ・事務局をサポートし運営に協力をしました。

#### ③ 和歌山県社会就労センター協議会

- ・機関紙編集委員として地域の事業所を訪問取材し「わかやまセルフ協だより」の作成を行いました。

#### ④ 地域との協力

- ・コロナ感染予防により地域活動が中止となり参加は出来ませんでした。
- ・見学者の受入や実習生の受入は感染予防に注意しながら行いました。
- ・器楽合奏コスモスの練習、和歌山放送ラジオチャリティーミュージックソン取材への協力を行いました。

#### ⑤ 啓発、情報発信

- ・福祉会ニュース編集委員会で法人内職員と合同で編集作業を進めました。
- ・ブログ更新を最低毎月1回更新し、作業所の様子を対外的に知ってもらう機会としました。